

平成24年5月8日定例経営会議（要約）

（平成24年5月8日 午前9時30分～11時00分）

新たな創造 変化に対応

I 開会 ～ 市長あいさつ

ゴールデンウィークも明けて、いよいよ平成24年度も本格稼働である。連休中に出勤した方もいるかもしれないが、各自、英気を養うことができたかと思う。期間中は天候が悪化し、突風・竜巻の被害もあったが、東村山市内は平穏に過ぎており、安堵している。

富士見町で昭和49年から活動しているボランティア団体が解散する運びとなり、これまで蓄えていた70万円を寄付していただくことになった。4月25日に、代表を務めている方のご自宅に伺った。昭和49年当時は、まだ「高齢化」も「ボランティア」も一般的な言葉ではなかったが、富士見町は高齢者が多く、当時は専業主婦も多かったことから、社会貢献活動を行なって自己実現を図ろうという趣旨で組織され、施設でのボランティア活動を40年近く実施してこられた。

会員の中で高齢化が進み、亡くなられる方が出てきたこと、また、若い世代がなかなか加わらず、残念ながら解散されるとのことである。地域社会の現状を象徴する出来事と理解している。福祉分野に限らず、教育分野や地域の祭り、イベントなど、東村山市で地域を担っている様々な団体や、ボランティアの方々の中では、高齢化が進み、後継者がいないため解散したり、年中行事のイベントや祭りが縮小するなどしている。

総体的に見ると地域力の低下に繋がる現象であり、次の世代をいかに育成していくかについては、それぞれの団体で考える必要があるが、本市として、世代・地域を超えて市民活動団体を広げていくことは課題である。こうした団体が少なくなるということは、今後のまちづくりに対して、ボディーブローのように効いてくる恐れがある。現時点で具体的な対策はないが、様々な機会に市民を巻き込みながら、自発的な活動を促す支援に各所管で取り組まなければならない。

26日の臨時議会は無事に終了することができ、各部長、関係所管に感謝したい。

28日の市民表彰式は、秘書課の創意工夫により、スライドで各表彰者の日頃の活動を紹介していただいた。良かったと思う。

29日のみどりの祭典は、天候にも恵まれ多くの来訪者があった。今後も継続して力を入れてまいりたい。

5月7日は環境建設委員会であった。所管はご苦労様であった。

ゴールデンウィーク後半は休ませていただき、あちこちに外出した。特定のテーマがあったわけではないが、どのように活気・賑わいを生み出すかについて考えながら、都内のいくつかの商店街と観光都市・鎌倉まで足を延ばした。

H24. 5. 8 定例経営会議

有名な商店街であっても、どこにでも見られるチェーン店がひしめき、“その商店街でなければならない”といえるものがない商店街もあった。反対に、“その場所、商店街に行かないと食べられない名物や、そのまちだけのお店がある場所”は、非常に魅力的に感じられた。まちの個性や固有性について、その場に行かなければ味わえない味や、楽しめない雰囲気がいかに大切かをあらためて実感した。

また人工的な空間である商店街のような場所も、ささやかな緑があれば気持ちが和む。鎌倉も相当な人出であったが、多くの緑に囲まれているためか、それほど殺伐とした様子にはならない。演出として、まちなかに緑を適切に配置することが大切だと感じた。

古いものと新しいものをうまく融合させ、一体感を出すことによって、東村山らしさを生み出せると良いと思っている。鎌倉では円覚寺の舍利殿が特別公開されていたが、素材としては正福寺の千体地蔵堂の方が凛々しく感じられた。ただし、周囲が住宅地であり、千体地蔵堂だけがポツンとあっても観光資源にはなりにくい。沿道や全体のロケーションをいかに構成していくかが課題であると思われる。今年の菖蒲まつりでは、可能であれば、東村山の北西部を歩いていただけるような演出を心がけると良いのではないかと思う。

II 協議事項

(1) 職員表彰について（継続）

震災関連では、被災地への職員派遣と各所管の取り組みが挙げられた。過去に震災関連で派遣職員を表彰した事例はないが、今回は規模が大きく派遣期間が長いことから対象とする。ボランティアの対象者は善行表彰の対象となる。

その他の対象者については、8日を期限として各部から挙げられた者を、表彰審査会に提出することとする。

(2) (仮称) 保育施策検討準備会について

今後の保育施策を検討する庁内会議を立ち上げる。将来的な保育園のあり方、公私立の役割分担、公立保育園の民営化等について、関係所管の次長級による会議体を立ち上げ、8月末を目途に市としての考えをまとめる。構成メンバーは、子ども家庭部、経営政策部、総務部、健康福祉部、教育部の各次長に保育園職員を加える。以上、決定する。

(3) スポーツ祭東京2013実行本部の設置について

組織図および各課の配置について、分担に職員名を入れて5月31日までに提出する。本大会に従事する者は、業務としての取扱いとする。

Ⅲ 報告事項

(1) 平成23年度第2回定期監査報告について

第2回定期監査について、1月19日、23日、2月7日の3日間、社会教育課、市民スポーツ課、国体推進室、図書館、公民館、ふるさと歴史館を対象に、特に現金取扱業務、収納事務について重点的に実施した。施設使用料の収納、契約事務のあり方、費用対効果・PRの検討という3点が課題として挙げられた。各事項、対応に努める。

(2) 東村山駅周辺まちづくりについて

東村山駅周辺まちづくりは、平成12年の都市計画マスタープランで「大踏切をはじめとする踏切を拡幅や立体交差で早急に改善を図り、長期的には連続立体交差を視野に入れて検討する」と位置づけている。平成18年3月の第3次後期基本計画では、連続立体交差化事業と周辺のまちづくり事業の推進を掲げ、多くの市民の意見を基に、平成21年2月に「東村山駅周辺まちづくり基本構想」、23年8月に「東村山駅周辺整備の方向性」を策定した。鉄道高架化による土地利用は、23年度に、企画政策課が庁内各課にアンケート調査を実施した。

(3) 東村山駅周辺・高架下土地利用に関するアンケートについて

2月16日から3月9日まで、「東村山駅周辺・高架下土地利用に関するアンケート」を実施した。昨年7月から8月に実施した各課対象のアンケートでは、分野別の計画等に位置付けられている施設等について尋ねた。

今回の調査は、今後の検討に備えて全職員を対象に、利用者の視点からどのような土地利用が考えられるか意向や提案を募ったもので、33名から回答があった。今後、事業化が進んだ段階で詳細な調査を行っていく。

(4) 平成24年転出入・転居に関する臨時窓口実施結果について

3月25日（日）、4月7日（土）に臨時窓口を設置した。

(5) 市議会6月定例会提出予定案件・所信表明事項について

提出予定案件を確認する。

(6) 平成24年度緊急連絡網について

平成24年度版の緊急連絡網を作成した。今後連絡網による参集訓練を行う予定である。

IV その他

- ・東村山キャンパスについて（情報提供）

- ・総合水防演習について

総合水防訓練を11日10時から北山公園で実施する。

- ・商工会総会について

22日に商工会総会が実施される。

- ・春の緑の祭典について

4月29日に開催された。主催者発表による参加者は2万2千人で、昨年度から1割増である。

- ・中国訪問について（教育長）

5月2日に中国へ出発し、3日に蘇州市の教育局局長と面会し、日本との積極的な交流を要請したほか、化成小学校の交流校を見学した。4日は久米川東小学校との交流を進めている実験小学校を見学した。

V 閉会 ～ 副市長

以上